

博物館 Dictionary No.240

～あなたに語る・時代を超えて生きる心～

てんじ 展示中の作品について、研究員がわかりやすく解説します。 かいせつ

せい はく せき 齊白石ってどんな画家？



図1 三餘 齊白石 筆
中国・中華民国 19 年 (1930) 京都国立博物館蔵

中国の 20 世紀を代表する画家、齊白石を知っていますか？ 中国だけではなく、世界的にたいへん有名な水墨画家で、親しみやすい画風が多くの人々の心をとらえています。齊白石の絵の魅力は、素朴さと簡潔な描写でありながら描いた対象の生命感をしっかりととらえていることです (図1)。画面の構図や墨や彩色の扱い方、添えられた文字までも神経のゆき届いた、力強い作品ばかりなんですよ。とあるオークション

では、齊白石の作品にびっくりするような高額がついたこともありました。おや、何だか簡単に描けそうで、どうすごいかよくわからない？ それでは齊白石の魅力、彼の人生をたどりながら一緒に探っていきましょう。

齊白石は 1864 年 (同治 2 年)、中国がまだ清という国だったころに生まれました。湖南省の湘潭というところの出身で、家は貧しい農家でしたが、体が弱く力仕事ができなかった白石は、家具などに飾りを彫る木工職人として暮らしていました。転機が訪れたのは 29 歳 (※数え年) の時、胡沁園 (1847～1914) という人に才能を認められて、本格的に絵を勉強するようになります。

このとき草花や鳥、虫などを写実的 (リアル) に描く「工画」という方法を学びましたが、ただ似ているだけではなく、「活 (生き生きとしていること)」が大切だと教わったそうです (参考図版 1)。同じころ、王闓運 (1833～1916) という人から詩などの文学について学び、絵画のテクニックだけではなく、深い教養も身につけていきました。ここから齊白石の画家としての人生がスタートします。



参考図版 1 飛蝗 (バッタ) 画稿
齊白石 筆 中国・北京画院蔵

『中国近代絵画の巨匠 齊白石』展覧会図録 図 38 より
北京画院・東京国立博物館・京都国立博物館 編
広西美術出版社 2018 年

画家として大きく成長するきっかけは40歳を過ぎたころにおとずれました。それまでほとんど地元の湘譚しやうたんから外に出たことが無かった白石はくせきは、友人の誘いきそで西安せいあん（陝西省）に出かけたのをきっかけに、中国国内を旅するようになります。たくさんの景色や人々に出会い、多くの過去の大作家の作品に触れ、白石の芸術は一気に成長を遂げて、彼だけの描き方を手に入れていきました（図2）。それから後は、リアルに描くだけではなく、素朴で大胆な構図と、自由なうごきの筆線をあやつり、軽やかでみずみずしい表現を追い求めていきました。これが白石の絵画の魅力なのです。

のちに「五出五帰（五回出かけては故郷に帰ってくる）」といわれる大旅行を終えた白石は、故郷に戻ってしばらく絵を描くことに専念していました。しかし、第一次世界大戦の影響が強くなってきた1919年、57歳のときに首都の北京に



図2 宋法山水図 齊白石 筆
中国・中華民国11年(1922)
京都国立博物館蔵



図3 鶴図（独鶴漫步）
齊白石 筆
中国・中華民国16年(1927)
京都国立博物館蔵

引っ越しをしました。白石は北京でたくさんの作品を作り、展覧会などで大きく取り上げられ、日本人など海外にも知られる有名な画家となりました。白石の支援者となった須磨弥吉郎すまやきちろう（1892～1970）と出会ったのもこのころです。現在、京都国立博物館が所蔵する須磨弥吉郎があつめたコレクションには、白石が人々に知られるようになって間もない頃（1920～30年代）の作品がいくつかふくまれています（図3）。

戦争が長く続き、たいへんな時期もありましたが、1945年に終戦を迎え、1949年に中華人民共和国が成立してからは、初代総理の周恩来（1898～1976）や、ふるさとが同じだった主席の毛沢東（1893～1976）から手厚くもてなされるほど、国をあげて大切にされる画家となりました。とくに1953年に政府から「人民芸術家」として表彰されたことが、中国を代表する画家として広く認められる決め手となります。白石は1957年に95歳でなくなるその年まで、ずっと絵を描き続けました。

貧しい農家に生まれ、努力を続けて自分だけの表現にたどり着き、中国を代表する画家となった齊白石。みんなに愛される白石の作品の魅力について、本物をじっくり見ながら考えてみてくださいね。

（美術室 もりはし 森橋なつみ）